2022年度

新島襄生誕180年記念 生徒・学生 懸賞論文募集

応募資格

❶ 同志社の諸学校（中学校、高等学校、大学、女子大学、大学院）に在籍する生徒・学生

❷ キリスト教学校教育同盟に加盟する学園に在籍する生徒・学生

❸ 新島襄または同志社に関心を持つ中学校、高等学校、大学、短期大学、大学院の生徒・学生

論文のテーマ

「新島襄または同志社の歴史に関するもの」

字　数

		日本語の場合	英語の場合
中学校の部	手書き	本文　2,500字程度 A４判原稿用紙 （縦又は横書）	
	パソコン	本文　2,500字程度	本文 1,500語程度
高等学校の部	パソコン	本文　4,000字程度	本文 3,000語程度
大学･短期大学･大学院の部	パソコン	本文 12,000字程度	本文 7,500語程度
パソコン原稿の書式		A４判横書 １ページ 40字×30行	A４判横書 １ページ 30行

締　切

2022年11月2日㈬【必着】

送り先

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学同志社史資料センター

表　彰

応募作品は審査委員会において審査のうえ、最優秀賞、優秀賞、佳作を選び、第180回新島襄生誕記念会において賞状・賞品を授与する。なお、入賞作品は『2022年度新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2023』に収録し、刊行する。また、入選者については『入選作品集』に学校名、氏名を記載する。

注意

① 応募にあたっては募集チラシ裏面の「新島襄生誕記念懸賞論文　作成要領」にしたがうこと。(https://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html)

② 断りなしに他者の文章を使用してはいけない。使用した場合、注をつけるか、原稿末尾に、引用文献および参照した文献のリストをつけること。詳しくは同志社社史資料センターホームページ「懸賞論文」(https://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html)あるいは『2021年度新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2022』(学校法人同志社各校図書館に所蔵) 掲載の「懸賞論文の書き方について」を参照すること。

③『新島襄全集』『現代語で読む新島襄』『新島襄の手紙』『新島襄 教育宗教論集』『新島襄自伝』など、新島自身の文章を資料として利用することが望ましい。

④ 応募原稿は原則として返却しない。

主　　催 ▶ 学校法人 同 志 社
問合せ先 ▶ 同志社社史資料センター事務室
（TEL：075-251-3042　FAX：075-251-3055　E-mail：ji-shasi@mail.doshisha.ac.jp）

新島襄生誕記念懸賞論文 ■ 作成要領 ■

新島襄生誕記念懸賞論文審査委員会

1 文字数・ワード数について

本文の文字数・ワード数は指定数の上下10％前後を目安とする。

2 作成方法

(1) 共通事項

① Ａ４判の用紙を使用する（原稿用紙の場合、特に気をつけること、おおよそ29.7×21cm）。

② ページ番号をつけること（タイトル、氏名等を記載したページを第１ページとする）。

③ 表紙はつけない。

④ １ページ目の冒頭に「タイトル」（必要な場合は２行目を使ったり「サブタイトル」をつけてもよい）、改行して「所属学校・学年」、さらに改行して「氏名」を書き、氏名には「ふりがな」をつける。

⑤ 本文の文末に本文の字数（日本語）かワード数（英語）を記載する。
パソコン等に表示された字数・ワード数でよい。原稿用紙の場合は、行単位で計算する。

⑥ 高校生以上はパソコンで作成すること（後日提出を求める場合があるので、作成した応募原稿はデジタルデータで保存すること）。

「(1) 共通事項」とあわせて以下の事項にしたがうこと。

(2) 原稿用紙使用の場合（中学生）

① 400字詰Ａ４判原稿用紙（20字×20行）を使用すること。

② 縦書き横書きは自由。

③ 鉛筆のＢまたはＨＢを使用し、大きくしっかりと濃い目の字を書くこと。

(3) パソコンで作成の場合

① 原則として横書き、１頁40字×30行とすること。

② 特に必要ある場合は縦書き（用紙横）１頁30字×40行としてもよい。

3 論文の書き方について

(1) 」の前には、句点（。）はつけない。

例：文書の途中の場合　…と言った」と書いている。
　　文書の最後の場合　…と言った」。

(2) 年号は西暦で表記する。なお、必要な場合は元号を併記する。

例：1875（明治８）年

4 注のつけ方について

論文の場合、注のつけ方はたいへん大切で、その論文の価値にも影響する。応募にあたっては、『新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集』（学校法人同志社諸学校等の図書館に所蔵）中の「懸賞論文の書き方について」を必ず読んで、例にならうこと。
同志社社史資料センターホームページ／「懸賞論文」のホームページにも掲載しているので、参照すること。https://archives.doshisha.ac.jp/essay/outline.html